

## 2年次進級論文 方向性

テーマ： 外国人労働者の社会統合とその子ども達

きっかけ： ・ミクロ班で外食産業を担当した時、今後の問題点として考えられるのが外国人労働者の増加であるだろうと考えたが、当時はデフレ下における外食産業だけに焦点を絞った為に気になっていたから。

・日本経済のグローバル化と少子高齢化を考えるうえで外国人の日本流ニューは加速するものと思われる。現に増え続けている外国人の日本での社会統合は図れるのかという疑問から。

方向性： 1 日本における外国人労働者の現状を歴史的・横断的に見ていく（日本的視点）

2 対外比較（海外の視点や志向）

3 日本における外国人労働者とその子どもの環境

4 日本のとるべき役割

補足：

流れの方向性としては以上の4点だが、少し噛み砕いて説明すると、日本と海外からの外国人労働者に対する視点を述べて対外比較したのちその子ども達の育つ環境について問題点をあげ、これらを踏まえて増え続ける日本の外国人労働者に対してどのような受け入れ態勢が必要とされるのかを説く。ここでなぜ子どもを取り上げたかという点、出稼ぎ目的の多い外国人労働者の中には不法入国者があり、彼らの子どもは一番人格形成に重要な時に母国語が十分でない状態で強制撤去させられる可能性があるのである。不法入国者に対しては摘発数が増えているとはいえより強化しない限りこのような状態は免れない。

以上に加えて子どもにこだわった理由は、進級論文に取り掛かる際には実際に経験したこと（動いて体で感じたこと）を書きたいと思いました。3月くらいから外国人の子どもに関するボランティア活動に参加する予定です。これは論文のためではなく自分や彼らのため、そして根本的な理由として助けたいという願いがあったからです。実際の経験を通じたからこそ中身の詰まったものとなるとおもうのです。これから取り組む題材として私はこれを選びました。